【「情報」 コミュニケーションと情報デザイン、名刺のデザインと工夫・改善】①

【沖縄県立宮古特別支援学校】

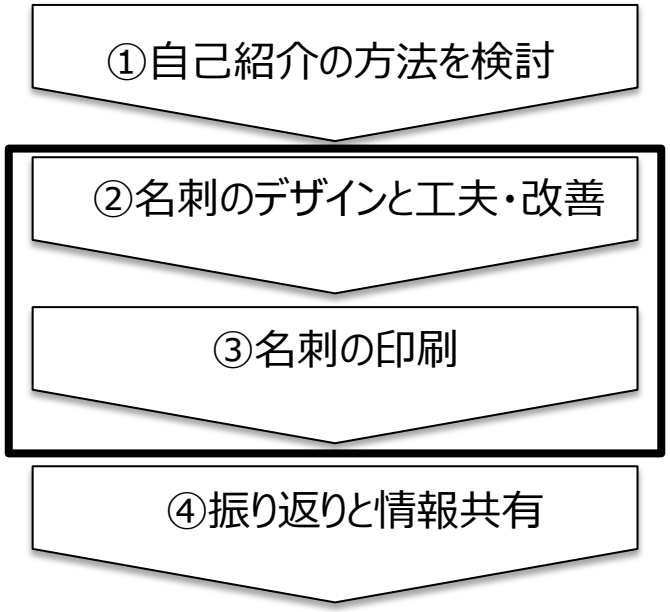
学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

名刺を作る学習において教科等横断的な学習を計画し実践した。本事例は知的障害を持つ生徒を対象としている。実際的・具体的な内容の指導が効果的であるため、就業体験の自己紹介で生徒が用いる名刺を柱に教科横断的な問題解決学習を実践した。その際、各教科の深い学びが実現できることを念頭に工夫をした。

評価規準

【知・技】問題解決の手順を理解している。情報デザインについて理解し情報機器を用いてデザインをすることができる。
【思・判・表】名刺の目的を意識して効果的に情報を伝達するデザインを考えることができる。
【主】他者からのフィードバックを受け止め、自己調整しながら解決案を考え評価し改善しようとしている。

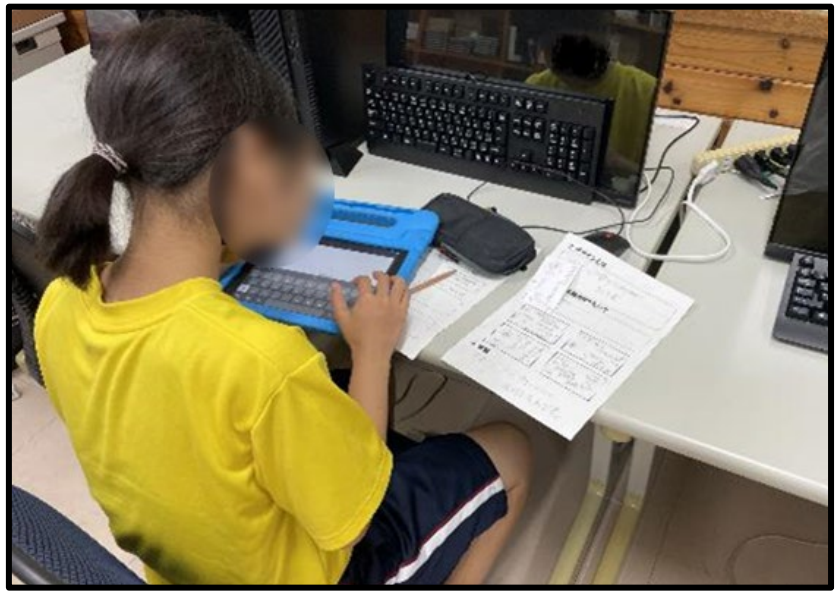
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動の充実



①名刺をデザインする目的とそのために必要な情報を検討する。
②美術科で制作した名刺（手書き）をもとに、情報科ではコンテンツ制作ツールを複数用いて名刺をデザインし、ツールを比較してより良いツールを選択できるよう工夫した。並行して情報デザインに関する知識を学び、どの情報をどのように表現した方がより問題解決につながるのかを検討しながらデザインを改善した。美術科ではデザインの基礎とお互いのデザインを鑑賞・フィードバックして改善に活かした。
名刺のデザインを校内の職員へ共有し、投票とフィードバックをしてもらう。それをもとに、改善すべき情報を整理・分析し改善の有無を判断して、完成させた。
③名刺データはカラープリンタを使って１人４枚程度を印刷する。ネットワークの学習を関連付けてプリンターとパソコンを接続する方法を学ぶとともに、紙すき作業で作った紙と市販の名刺用紙に印刷して違いを確認するなど学習を深める視点を増やすよう工夫している。
④学んだ学習内容を振り返りポスターを制作した。

【「情報」 コミュニケーションと情報デザイン、名刺のデザインと工夫・改善】②

【図① 学習の様子】



【図② コンテスト結果】

本実践では、自分自身の名刺を作る過程において自ら課題を考え解決する学習である。他教科と連携し学びを深めるよう工夫した。

【学習指導の工夫・改善】

名刺のデザインや制作活動は情報科と美術科の学習を連携するとともに、校内でのコンテストを開催し他者の意見を聞き改善する学習を設定した。本コンテストでは児童生徒と教職員を分けることで、対象によって解決策が変わってくることが実感できるようにした。

各教科の学習内容はコミュニケーションツールで整理し、グラフィックデザインツールを用いて協働してポスターを制作して掲示するなど学びの振り返りを工夫した。Wi-Fiダイレクト機能での印刷やクラウドサービスで共同作業を行うため、ネットワークに関する内容も関連付けて学習している。

連携した教科等での学習内容は下記の通りである。

国語：印刷した名刺を手渡すマナー
数学：名刺サイズの学習と長さの測定
英語：自身の名前のローマ字表記
社会：名刺の歴史
理科：名刺印刷用の月桃入り手すき用紙作り
美術：デザインに関する学習、各デザインの鑑賞、評価
職業：作成したデザインを基に名刺作製販売
プレコンテスト：教職員の投票及び意見収集、名刺の改善
本コンテスト：児童生徒と教職員の投票、結果の共有及び振り返り

本事例のポイント解説

沖縄県

本事例は特別支援学校高等部において、教科等横断的な視点での学習指導の充実に取り組んだ事例である。情報の「コミュニケーションと情報デザイン」において生徒が自己紹介を適切に行う手段として名刺を取り扱い、名刺の制作を教科等横断的な学習で意図的・計画的に指導することにより、学びの興味関心を高め実社会に役立つ実感を持つことができる。

学習活動ではコンテンツ制作ツールを複数試し自分に合ったツールを選択して学習を進めることや、振り返りをコミュニケーションツールで蓄積・共有するなど教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動である。